

「2025年度香港中文大学サマープログラム派遣参加報告書」

京都大学文学部2年 石田 有咲

今回の香港派遣プログラムに参加したことは、私にとって大きな学びと成長の機会となった。まず学習成果の面では、参加前は「留学してみたい」という漠然とした憧れが中心であったが、現地で学び生活したことで「実際に自分がどのように学び、どのように成長していけるか」を具体的に描けるようになった点が大きい。特に現地大学での授業を通して、学生が積極的に発言し議論を交わす姿勢に触れ、主体的に学ぶことの大切さを強く感じた。帰国後は、自分も受け身ではなく能動的に学ぼうという意欲が高まっている。

海外での経験という点では、香港という多文化社会に身を置いたこと自体が刺激的であった。街には中国的な文化と西洋的な文化が混ざり合い、日常生活の中に多様性が自然に存在している。その環境に自分を置くことで、「違い」に対して不安を抱くよりも、「違うからこそ学べることがある」と前向きに考えられるようになった。また、はじめは食事や生活習慣の違いに戸惑ったが、それに適応していく過程を通して、自分の柔軟性が少しずつ鍛えられていったとも感じている。今までは海外に恐れを抱いていたが、帰国する時期には、一人で出かけ、現地の人に尋ねながら行動することもできるようになっており、海外に踏み出す勇氣を持てた。

プログラムの内容も充実しており、講義やディスカッションだけでなく、現地での見学やフィールドワークを通して学びを深めることができた。特に香港が抱える歴史的・社会的背景を直接体験として知ることができたことは、机上の学びでは得られない貴重なものだった。

この派遣は私の進路にも大きな影響を与えた。これまでは「海外留学をしてみたい」と漠然と考えているだけの段階だったが、今では海外留学をしようと決意することができた。また、香港での経験をきっかけに、さまざまな国に出かけ、さまざまな文化を知りたいという思いが高まり、留学以外でも、さまざまな国を訪れたいという思いが一層強くなった。

総じて、今回のプログラムは私に「国際的な学びは夢ではなく現実的な目標である」と気づかせてくれた。学習意欲、国際理解、進路への展望のすべてにおいて大きな変化を与えてくれたこの経験を、今後の学びと人生にしっかり活かしていきたい。